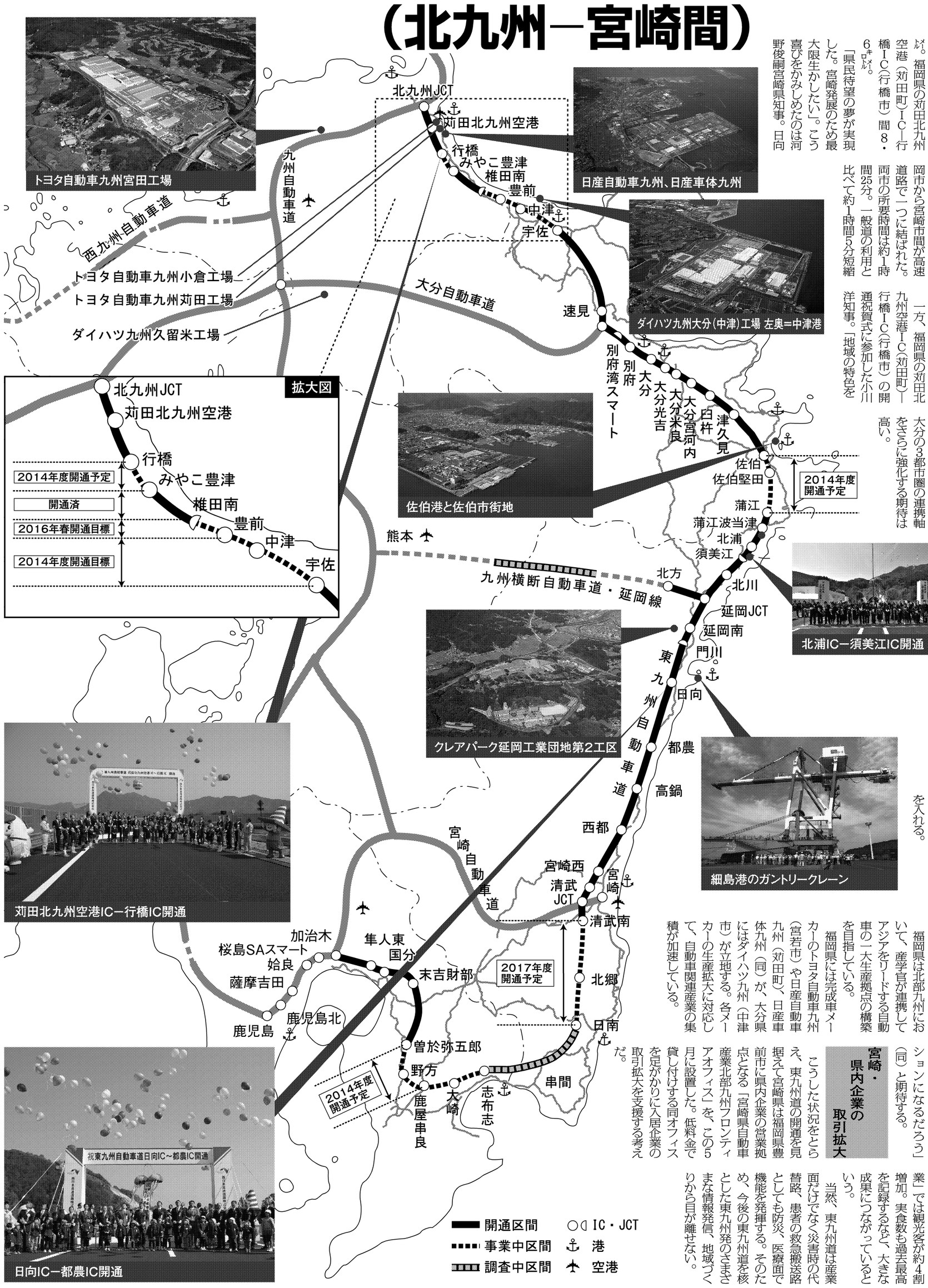
東九州「新」時代　東九州自動車道 開通迫る！
（北九州―宮崎間）



2016年春、開通目指す

東九州の新たな時代の幕開けが、間近に迫っている。その道標となるのが現在、整備中の東九州自動車道。北九州市を起点に福岡、大分、宮崎、鹿児島の各県を結び鹿児島市に至る総延長約436キロメートルの高速道路だ。2016年春には北九州市―宮崎市間が開通予定。すでに同区間の宮崎県内は開通。14年度は福岡県の一部区間を残して全線が開通する。沿道地域は重要港湾や空港があり、自動車や半導体、素材といった関連産業が集積。このほか循環型の高速交通ネットワークの形成により観光や地域間交流の強化など、九州全体を浮揚させる起爆剤としての期待が高まっている。

延岡―宮崎間が開通

14年3月、東九州道の3区間が相次いで開通した。4月時点の整備状況は約64％。

開通したのは宮崎県の北浦インターチェンジ（IC、延岡市）―須美江IC（同）間6・4キロメートルと日向IC（日向市）―都農IC（都農町）間20キロメートル。福岡県の苅田北九州空港（苅田町）IC―行橋IC（行橋市）間8・6キロメートル。

「県民待望の夢が実現した。宮崎発展のため最大限生かしたい」。こう喜びをかみしめたのは河野俊嗣宮崎県知事。日向IC―都農IC間の開通祝賀式であいさつした。

長年、宮崎県は交通の不便さから陸の孤島と呼ばれてきた。それだけに同式典参加者からも「今後の地域間競争に打ち勝つため、農商工連携した商品づくりに取り組む」など決意の言葉が寄せられた。

同区間の開通により延岡市から宮崎市間が高速道路で一つに結ばれた。両市の所要時間は約1時間25分。一般道の利用と比べて約1時間5分短縮された。

現在は北浦ICから大分県側の蒲江IC（佐伯市）まで開通。14年度末には佐伯IC（同）―蒲江IC（同）間20・4キロメートルが開通し、大分市―宮崎市間が約2時間50分で結ばれる。

苅田北九州空港―行橋間が開通

一方、福岡県の苅田北九州空港IC（苅田町）―行橋IC（行橋市）の開通祝賀式に参加した小川洋知事。「地域の特色を発揮するには東九州道の整備が不可欠。全線開通の機運を盛り上げていこう」と呼びかけた。

16年春に北九州市―大分市間が開通すると、約1時間45分で両市間が結ばれる。北九州市―宮崎市間は4時間20分となる。北部九州の未整備区間（ミッシングリング）が解消し、福岡、北九州、大分の3都市圏の連携軸をさらに強化する期待は高い。

東九州の潜在力

これまで東九州地域は九州の東の玄関口といわれてきた。だが近年、西九州では九州新幹線の開業に沸くなど、西九州に比べて東九州はインフラ整備の遅れが指摘されてきた。

日向市・重要港湾の細島港

とはいえ、東九州のポテンシャルは高い。日向市は宮崎県内で農業が盛んな地域。国の重要港湾である細島港では国際物流ターミナルの整備が進むほか、東九州道日向ICから企業誘致の受け皿となる細島工業団地への道路も整備された。

延岡市・医療機器の拠点

延岡市は旭化成の発祥の地。大分・宮崎両県が推進する医療機器関連産業の集積を目指す東九州メディカルバレー構想の策定以来、医療機器生産拠点として注目度が高まっている。延岡ICから10分以内には企業活動に好立地のクレアパーク延岡工業団地第2工区があり、企業誘致に力を入れる。

佐伯市・水深14m岸壁が完成

また大分県佐伯市は造船、医療機器メーカーが立地する拠点。このほど佐伯港では水深14メートルの岸壁が完成。県内では大分港とならび5万トン級の大型船舶が入港できるようになった。

佐伯ICから15分以内には門前工業用地、永野工場用地があり、交通の利便性を生かした企業誘致、ポートセールスに力を入れる。

東九州道を核に地域戦略

産業面における東九州道の位置づけは、まさに物流の効率化にほかならない。このチャンスを生かして産業・物流の拠点形成につなげる開通効果を最大限引き出し、地域産業の活性化に向けた戦略が各地域で動きだしている。

宮崎・工業団地開発

宮崎県では14年度、県内市町村が整備する工業団地開発の支援など、東九州道を利用した企業立地支援を積極化する。立地企業に対して貸し工場やオフィスビルを建設する業者への建設費補助、高原町の「フリーウェイ工業団地」の通信インフラ整備を進める。

東九州道の開通について、完成車メーカー担当者は「距離感が一層縮まる思いだ」と喜ぶ。「北部九州を完全にループで回ることができ、宮崎、鹿児島ともつながる。本州方面への物流面でも想像以上の優位性が出るだろう」（完成車メーカー担当者）と。

加えて「さまざまな産業が九州内で完結し、暮らしがさらに豊かになる。国内のモノづくりにおいて九州はベストポジション になるだろう」（同）と期待する。

福岡・自動車産業の集積

福岡県は北部九州において、産学官が連携してアジアをリードする自動車の一大生産拠点の構築を目指している。

福岡県には完成車メーカーのトヨタ自動車九州（宮若市）や日産自動車九州（苅田町）、日産車体九州（同）が、大分県にはダイハツ九州（中津市）が立地する。各メーカーの生産拡大に対応して、自動車関連産業の集積が加速している。

宮崎・県内企業の取引拡大

こうした状況をとらえ、東九州道の開通を見据えて宮崎県は福岡県豊前市に県内企業の営業拠点となる「宮崎県自動車産業北部九州フロンティアオフィス」を、この5月に設置した。低料金で貸し付けする同オフィスを足がかりに入居企業の取引拡大を支援する考えだ。

大分、宮崎・医療機器、観光分野を振興

さらに「九州が一体となって活動できる基盤づくりに期待している」と意気込むのは広瀬勝貞大分県知事。宮崎県と連携した東九州メディカルバレー構想の推進や両県で観光振興に取り組む考えだ。

実際、佐伯・延岡両市が13年度に取り組んだ「東九州伊勢えび海道事業」では観光客が約4割増加。実食数も過去最高を記録するなど、大きな成果につながっているという。

当然、東九州道は産業面だけでなく災害時の代替路、患者の救急搬送路としても防災、医療面で機能を発揮する。そのため、今後の東九州道を核とした東九州発のさまざまな情報発信、地域づくりから目が離せない。

九鉄工業株式会社
代表取締役社長　甲斐　総治郎
〒800-0007 北九州市門司区小森江3-12-10
TEL093-371-1731　FAX093-391-0544

五洋建設株式会社 九州支店
常務執行役員支店長　下石　誠
〒812-8614 福岡市博多区博多駅東2-7-27
TEL092-475-5000　FAX092-475-5011

りんかい日産建設株式会社 九州支店
執行役員支店長　山田　雄司
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-13-10 赤坂有楽ビル
TEL092-731-1055　FAX092-731-1282

若築建設株式会社 九州支店
執行役員支店長　烏田　克彦
〒808-0024 北九州市若松区浜町1-4-7
TEL093-752-3510　FAX093-771-5423

前田建設工業株式会社 九州支店
執行役員支店長　永重　雅守
〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-14-1MKD7
TEL092-451-1541　FAX092-451-1611

株式会社熊谷組 九州支店
執行役員支店長　平島　司
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通4-10-10
TEL092-721-0011　FAX092-721-0022

鹿島建設株式会社 九州支店
常務執行役員支店長　松崎　公一
〒812-8513 福岡市博多区博多駅前3-12-10
TEL092-481-8001　FAX092-481-8019

株式会社安藤・間 九州支店
執行役員支店長　菊地　保旨
〒810-0041 福岡市中央区大名1-8-10
TEL092-724-1131　FAX092-724-1140

環境にやさしく
安全な社会の
創造に向けて
あくなき挑戦を続ける
「100年企業」をめざして ANNIVERSARY 75 NIPPON KANRYU INDUSTRY CO.,LTD
当社グループは、平成26年7月に創立75周年を迎えます。
安心・安全をお届けするために
日本乾溜工業株式会社
〒812-0054　福岡市東区馬出1丁目11番11号

心のかよう道づくり
福田道路株式会社
代表取締役社長　河江　芳久
九州支店長　立本　明
本　社　〒951-8503 新潟市中央区川岸町1-53-1
TEL025-231-1211　FAX025-231-1212
九州支店　〒812-0016福岡市博多区博多駅南3-7-35
TEL092-475-6038　FAX092-475-6039
http://www.fukudaroad.co.jp

オンリーワンの技術力
建設用ファスナー・トンネル掘削用資材・専門工事
開発から施工・保守まで、未来を支える確かな技術
KFC 株式会社 ケー・エフ・シー
代表取締役社長　髙田　俊太
本　店　〒530-0047 大阪市北区天満3-2-17
TEL06-6363-4188　FAX06-6363-2077
大阪建設部　TEL06-6363-2501　FAX06-6315-6080
東京建設部　TEL03-6402-8271　FAX03-6402-8275

喜びをつくる
Matsuyama
松山建設株式会社
代表取締役　松山　孝義
本社　〒810-0011 福岡市中央区高砂2-24-23
TEL092-533-0001　FAX092-533-0002